

# 性感染症について

## 不妊症を招く性感染症

近年、若年層、特に若い女性において梅毒が増えているのをご存知でしょうか？

2015年に入って、厚生労働省は梅毒に関するQ&Aや新しいリーフレットをホームページ上に公開するなど、日本国内の患者数は急速に増加しています。その数は、ここ5年間に約5倍と想像以上です。

このような性感染症の中には残念ながら、不妊症に結びついてしまう性感染症がいくつかあります。

ですが、これらの性感染症は早期発見早期治療することで妊娠することは可能です。

自覚症状がなくとも妊娠を意識したときには、予め検査を受けておきましょう。



## 不妊症を引き起こす性感染症

### クラミジア

国内における性感染症で、最も感染者数が多い疾患です。

クラミジアトラコチマスに感染することで発症しますが、自覚症状のないことが多く、気付いた時には重症化していることもあるので注意が必要です。コンドームなしの性行為のほか、性器に触れることで感染に至るケースも増加しています。

女性がクラミジアに感染すると卵管炎や癒着が起こり、不妊症を引き起こしてしまいます。

### 淋菌感染症

性的接触によって淋菌が引き起こす性感染症です。感染力が高く、男性においては尿道炎、女性では子宮頸管炎になることがあります。

こちらも自覚症状に乏しく、気付いた時には重症化して不妊症の原因となることがあります。

### 梅毒

梅毒とは梅毒トレポネーマが原因となって全身に発疹が生じ、放置すると死に至る性感染症です。また、感染したまま妊娠出産を迎えると、母子感染を起こして胎児に悪影響を及ぼしてしまいます。

### 性器カンジダ症

特に女性に多い性病で、カンジダ属の真菌（カビの一種）が原因となって起こる病気です。パートナーから感染することもあります。もともと人の体内にある菌とも言われ、他の性感染症とは少し性質の違うものとなります。

典型的な症状として、外陰部のかゆみがあり、ヨーグルト状のおりものが増えたりします。男性に症状が出ることは少ないですが、包茎の人には女性と同じようにかゆみなどの症状が出やすくなります。

## 赤ちゃんにも影響を及ぼす性感染症

妊娠中の女性が性感染症に感染すると、流産や早産の危険が高まります。

また赤ちゃんに感染すると、結膜炎、肺炎、ときには死につながることもあります。

妊娠を希望している人や妊婦は性感染症の検査を受け、もし感染していたら治療と同時に、赤ちゃんへの感染を防ぐ方法をとることが必要です。

## 性感染症を防ぎ、検査を受けましょう

上記で紹介した性感染症の怖いところは、どちらも膣内の感染に止まらず卵管のほうへと進んで炎症を起こしていく点です。

身体の内部で進行し、重篤化して不妊症とならないために、不特定多数との性交渉は避けましょう。

また、コンドームの着用も性感染症を防ぐには効果的だと言えます。

当院では不妊治療を行う前に、全員に採血検査を受けていただき、感染症の有無を調べます。

ご不明な点は医師、スタッフにお気軽にお声をお掛け下さい。



# 性感染症 Q&A

## ❁ 性感染症の感染を防ぐ予防方法はどんなものがありますか？

### ❖ パートナーを定める

二人とも感染していないことが確実でお互いに他のセックスパートナーがいなければ、二人の性的接触は安全です。

### ❖ より安全な性行為（セックス）をする

コンドームの使用が一番現実的で確実な感染予防方法です。

ただし、コンドームで予防できない性感染症もあるので注意してください。

感染予防のために、膣性交の時だけでなく口腔性交（オーラルセックス）や肛門性交（アナルセックス）の場合でも、コンドームを必ず正しい方法で使用してください。



## ❁ 性行為（セックス）をしなくても性感染症になることがあるのでしょうか？

### ❖ 性感染症の種類によっては、感染している人とのタオルや下着などの共有による感染、まれに銭湯などで感染する可能性もあります。

血液により感染する性感染症の場合は、カミソリや注射器の共用などにより感染します。

母親が感染している場合は、胎児や新生児に感染することもあります。

## ❀ 性感染症は、感染していて症状が出ていなくても相手に感染しますか？

- ❖ 性感染症に限らず、どんな感染症も潜伏期間中でも相手に感染させてしまう可能性があります。

性感染症に感染していることがわかったら、速やかにパートナーも検査と治療が必要です。

当院では不妊治療を行う前の、感染症の採血検査の際にパートナーの方への採血検査も行っております。

ご不明な点は医師、スタッフにお気軽にお声をお掛け下さい。



## ❀ 性感染症の症状はどんなもの？

- ❖ 女性の場合は、おりものの異常や陰部のかゆみ・痛み・悪臭などです。

ただし、性器クラミジア感染症などでは、ほとんど症状がないので、要注意です。

性感染症は、自然に治ることはほとんどありません。そのままにしておくと不妊症など治療が難しい病気になってしまう危険性があります。

男性の場合は、排尿時の痛みや尿道からの膿（うみ）などです。

## ❀ 性感染症は一度感染し治療すれば、その後はうつりませんか？

- ❖ ほとんどの性感染症は、感染しても免疫ができないため、何度でも感染する恐れがあります。治療が完了した後も、性感染症の予防に気をつけなければなりません。